

# いがとこわか通信 vol.1

～三重とこわか国体をもっと知ろう～



▲国民体育大会のマーク

4月号から、2カ月に一度「いがとこわか通信」として、2021年の三重とこわか国体の開催に向けた取り組みや競技にかかわる人物を紹介していきます。

昭和50年に開催された第30回の「みえ国体」から46年ぶりに三重県で開催されるのが「第76回国民体育大会」です。

愛称は「三重とこわか国体」、スローガンは「ときめいて人 かがやいて未来」です。

伊賀市では、正式競技のサッカー(女子)、ハンドボール(少年女子)、軟式野球(成年男子)、剣道(全種別)、クレー射撃(成年)のほか、デモンストラーションスポーツのキンボールスポーツと伊賀流手裏剣打スポーツを行います。

三重とこわか国体のマスコット「とこまる」とともに、以前から市民に慕われている「にん太」と「し



▲にん太としのぶ



▲ご当地とこまる 伊賀市バージョン

のぶ」に大会PRなどで活躍してもらいます。

国民体育大会にはすべての人が参加できます。選手として競技に出場するほか、子どもから高齢者まで広く親しまれているデモンストラーションスポーツに参加したり、会場へ応援に行ったり、ボランティアとして参加することができます。ぜひ多くの人に国体に参加していただき、半世紀に一度のビッグイベントを一人ひとりの思い出にしてほしいと思います。

皆さんの笑顔とおもてなしの心で一緒に国体を盛り上げましょう。

## 【問い合わせ】

三重とこわか国体伊賀市実行委員会事務局  
(国体推進課内)

☎ 43-9100 FAX 43-9102



▲三重とこわか国体規定書体

## 伊賀市の文化財 121

### 国指定文化財(建造物) 俳聖殿(上野丸之内)

旅に病で夢は枯野をかけ巡る

この句は、「旅の途中で病床に臥し  
けながら、夢の中ではなお枯野をか  
けめぐっている」と、晩年の松尾芭蕉  
が病床で詠んだ句です。

自らを旅人と呼んだ芭蕉は、人生で  
数多くの旅をしました。蕉風と呼ばれ  
る芸術性の極めて高い句風を確立し、  
俳諧の芸術的完成者として、俳聖と呼  
ばれています。

俳聖殿は、芭蕉生誕300年を顕彰  
して、昭和17(1942)年に、地元  
出身の政治家川崎克によって建てら  
れた建造物です。内部は法隆寺夢殿を  
参考に八角堂とされ、中央の厨子には  
陶製の芭蕉座像が安置されています。

外観は、八角形平面の1階に、円形  
平面の2階を載せた構成で、上層の屋  
根は変形のうねったかたちをしてい  
ます。

芭蕉の旅姿を建  
築として表現した  
この建物は、上層  
の屋根が芭蕉の笠  
に、下層の屋根が  
蓑を着た肩から腰  
の姿に、その下の  
堂の部分が脚にあ  
たり、堂を取り囲



▲俳聖殿

む柱は、杖とも脚とも見立てられます。  
屋根は当初、伊賀焼の瓦葺の計画で  
したが、設計指導を行った東京帝国  
大学名誉教授伊東忠太の助言により、  
柔らかい感じの純日本風の檜皮葺に  
変更されました。また、柱や梁など主  
要な部材には、円形断面の木材が使用  
されています。

俳聖殿は、他に例を見ない構成をも  
つ、大規模な記念建造物であり、伝  
統建築を基礎にしながら、自由な意  
匠を取り入れた、独創的な造形にな  
る近代和風建築として価値が高いと、  
平成22年12月24日に国重要文化財に  
指定されました。

上野公園の一郭に位置する俳聖殿  
は、春は桜や藤、秋は紅葉、冬は雪景  
色など、四季折々の風景が楽しめます。  
51歳で漂泊の生涯を終えた芭蕉に、改  
めて思いを馳せてみませんか。

文化財課

☎ 22・9678 FAX 22・9667